



写真集 - 植物に残るニホンジカの食痕 -

--- ニホンジカの食痕から再造林地における

被害の危険度を判定しましょう ---

ニホンジカが生息する地域で苗木を植えるには対策が不可欠です。

森林総合研究所四国支所では、シカ防護柵（ネット）の設置を前提として、シカ被害の危険度に応じた再造林地の管理方法をご検討いただけるように作業手順を下記のパンフレットにとりまとめました。



「ニホンジカ生息地における被害危険度の判定」パンフレット

[PDF ダウンロード](#)

このパンフレットでご紹介している方法は、再造林を予定している場所の周辺でシカの食痕がある（シカに食べられた）植物の種数を数えることによって、防護柵を設置した後に入念な保守・管理が必要になるほどシカが生息しているかを判定しようというものです。

その際、日当たりのよい場所でシカの食痕が残る植物を見つけることが必要になります。

このページでは、作業手順において大切になるニホンジカの食痕をさまざまな植物について写真で紹介しています。



こんな場所で探しましょう

こんなところでニホンジカの食痕を探します。日当たりのよい林道脇などでススキの茂った場所です。



日当たりのよい林道脇や土場の跡などで、ススキ類（大型イネ科草本）の茂った場所です。





(撮影 深田英久)



ニホンジカによる食痕

ニホンジカには上の前歯がなく、平らな固い歯茎（歯床板）になっています。下の前歯と上の歯茎で植物の葉や茎を挟んで噛みちぎります。そのため食痕の断面は鋭利ではなく、断面から繊維が少し突き出して残ることがあります。

イタドリ

写真のように茎の外側の繊維がとびだして残っています。



クマイチゴ

写真左上の食痕には、断面から繊維がとびだしています。



スギの苗木

外側の柔らかい部分がなくなって、枝の中心の髓だけがとびだして残っています。





ニホンジカによる食痕 - 草本 -

イタドリ



コアカソ



フキ



ニホンジカによる食痕 - 低木 -

ヤマアジサイ



ヤマウルシ

枝が折られて、皮一枚でぶら下がっています。



ミツバウツギ

ほとんど葉がなくなって軸だけになっています。



キイチゴ

これもほとんど葉が残っていません。



クマイチゴ



ナガバモミジイチゴ





ニホンジカによる食痕 - 高木・亜高木 -

タラノキ



カラスザンショウ



ヒサカキ



エゴノキ

根本の枝が繰り返し採食されています。



ヒノキ



スギ



モミ

何度も採食されて盆栽のようになっています。





ノウサギによる食痕

刃物で斜めに切ったような切り口が特徴です。切られた先の部分が食べられずにそばに落ちていることがあります。

ノウサギに切られたスギの苗木



2017 年 8 月 25 日 作成

2021 年 4 月 22 日 更新

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 四国支所